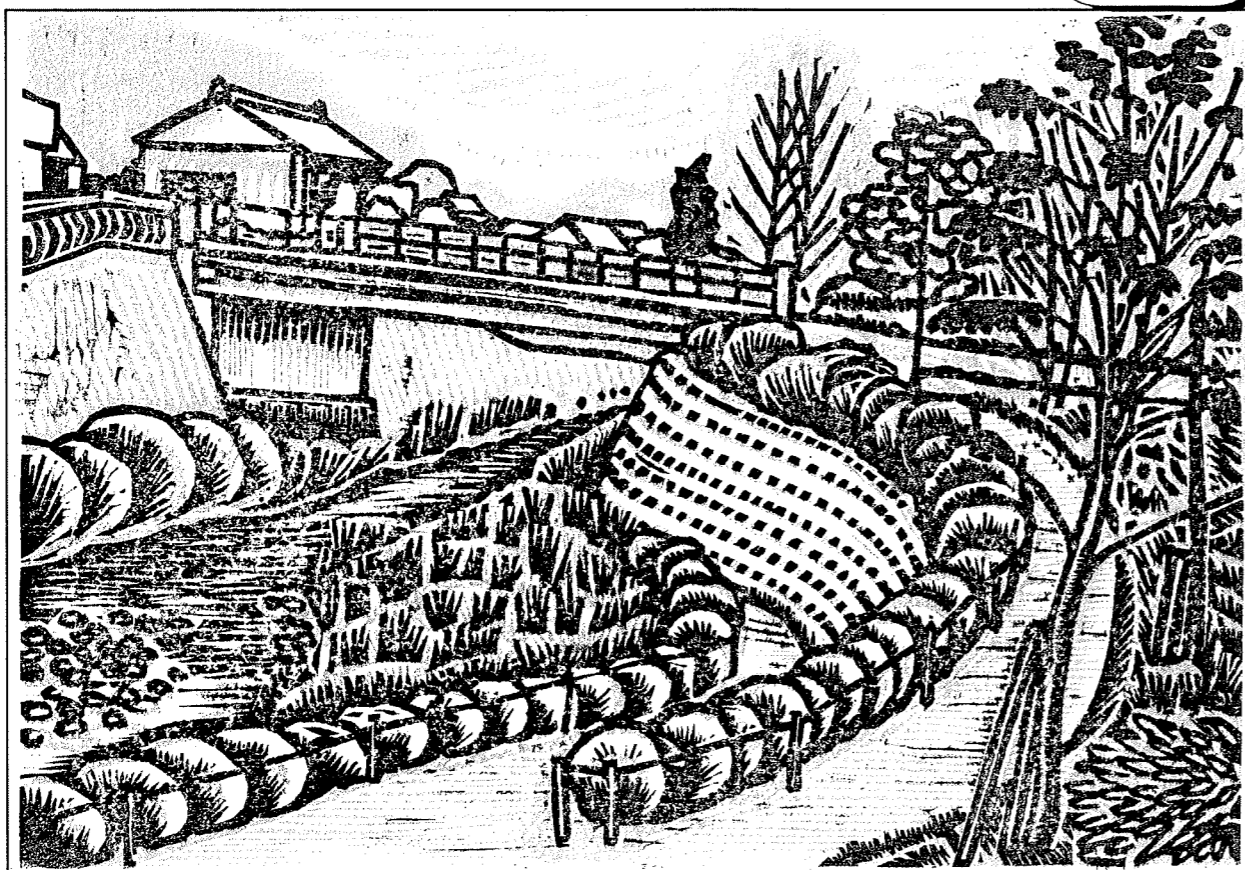


# いたちがわらばん

鮎川・狹川・川原番・瓦版 夏号



版画 宗森英夫

本郷小学校裏より桂橋を望む

## 白山堰の榮太郎

川の水が人の命より大切だった頃の話、いたち川の水は、白山の堰でせき止められ、一帯の田畑を潤し、日々の生活用水に使われる村の生命線だった。

大昔から、白山の堰に榮太郎と云う河童が住んでおった。榮太郎は、水神国から遣わされた川守だった。

榮太郎の姿を見た者は誰もいない。が、堰にいたすらをしたり、川を汚したりする者が川に引き込まれて溺れたり、時には二度と帰って来ない者も一人や二人ではないことから、榮太郎は川守として畏れられ、敬われておった。

榮太郎に引き込まれて、水神国へ召された人達の供養塔が少し下流に立てられた。参道橋がかげられ、『かえらず橋』と名付けられた。(現海里橋)

近年一帯の宅地化が進み、年々水田は姿を消し、上水道が完備すると堰は取り崩され、川はただの放水路に成り下がってしまった。

榮太郎も川守の役目を終え、水神国へと帰っていった。二度ともどつてくることはない。後日、戸塚区より分区的折、この一帯は榮太郎の一字をもらい栄区と名付けられた。

榮太郎は、いまも水神の国からいたち川の流れて、栄区に行く末をみまもっている。

(よしのぼり)

※この話は創作です。

**ユネスコ・アジア太平洋写真展**  
「自然と暮らし」がテーマの98年「ユネスコ・アジア太平洋写真コンテスト」入選作品110点を展示。  
日時/7月23日(金)~8月20日(金)  
午前9時~午後5時(月曜日は休館)  
場所/3階企画展示室  
入場料/無料  
問合せ/あーすぶらさ(地球市民かながわプラザ)  
☎896-2898

## 夏のおしらせ

**7月は河川の愛護月間です!**  
みんなの川をみんなで大切に。

**いかだまつり**  
日時/8月22日(日)午前11時~  
集合/大いたち橋付近  
主催/いたち川と親しむ会  
参加費/一人100円(保険料)  
問合せ/いたち川と親しむ会  
滝口 穂 ☎891-3530

**いたち川大清掃!**  
毎年恒例のいたち川の大清掃が行われます。  
ご協力をお願いします。  
日時/7月26日(月)午前10時~  
集合/稲荷森の水辺広場  
参加費/無料  
問合せ/栄区役所地域活動係  
☎894-8391

**第23回環境セミナー**  
**野外教室参加者募集**  
日時/8月6日(金)午後1時~  
集合/いたち川(日東橋付近)  
参加者/小学生以上(小学生は保護者同伴)  
定員/30人(多数抽選)  
応募方法/参加希望者全員の住所、氏名、年齢(学年)、電話番号を記入し、ハガキかFAXにて下記までお申し込み下さい。  
応募締切/7月23日(金)<必着>  
問合せ/横浜市環境科学研究所  
〒235-0012 横浜市磯子区滝頭1-2-15  
☎ 752-2605  
FAX 752-2609

**横浜自然観察の森 行事のお知らせ!**  
~季節の森を歩こう~  
園内を友の会ボランティアがご案内  
月日/① 8月22日(日)  
② 9月26日(日)  
③ 10月24日(日)  
時間/12:30~14:00  
集合場所/自然観察センター  
いずれも参加は自由ですので、ぜひご参加ください。  
問合せ/横浜自然観察の森自然観察センター  
☎894-7474

## 天神橋~新橋水辺愛護会より

今年いたち川プロムナードで、9羽のカルガモの雛のお披露目があり、多くの人たちが感動しました。

私たちの愛護会もやっと1年が経過、ヨチヨチ歩きを始めました。自然が・川が大好きと言う人(小学2年生~88歳の御婦人まで)が、真夏の暑さ、冬の寒さにも拘わらず、毎回15名位でゴミを拾いました。ゴミの行き着く先は 生命の源の海 これを守り自然破壊を少しでも防がなくては... との考えからです。

区内に6つの愛護会があるとの事ですが、私たちの会が1番人通りの多い場所で目立っています。川下のため、雨の度にゴミが沢山漂着してがっかりしますが、気付いた人が出来る時に1人で、又は仲間間で声を掛け合って拾います。きれいになった川に心も洗われ、清々しくスッキリした気分になれます。他の愛護会・町内会・美化推進委員の方等の活動もあって、「この頃、川がきれいになりましたね」と言って頂ける様になりました。

先日、地区センターで愛護会の集いを開き21名の出席者が「無理をせず、出来る時に」の姿勢で今後も続けて行くという事で、和気藹々の雰囲気の中終了しました。これを聞いたら、水辺の生き物たちはどんなに喜ぶ事でしょう。

(あひる)

## 新隊員紹介!



田舎そだちのため、きれいな川や海にあこがれています。パットは燃えないけど、火がついたら消えません。炭火のように灯を灯しつつつづきたいものです。  
(IZUMO)



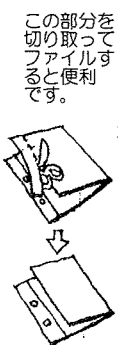
(写真 林 茂夫)

発行年月  
1999年7月

(通刊6号)

発行: 狹川OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局: 栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19  
TEL 045-894-8331 FAX 045-895-2260  
栄土木事務所下水道係 〒247-0007 横浜市栄区小管ヶ谷1-6-1  
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421  
(お便り・お問い合わせはこちらまで)



この部分を  
取り出し  
便利  
に  
切ります。

幼少時代を中野町しびれ（現・柏陽）で過ごされた、現・笠間小学校の中垣隆夫校長は四年ほど前にその頃の思い出を訪ね三十年ぶりにその地を散策されました。そのことを当時の勤務校の「学校だより」に掲載されました。その文章を「いたち川おたすけ隊」の隊員が目にししました。先生のお許しを得て天神橋から城山橋のいたち川の変化について触れられている部分を紹介いたします。

☆☆☆☆  
『ふるさとが縮む』

横浜市笠間小学校校長 中垣隆夫

私は子どものころ、鎌倉街道の「天神橋」と「石橋」の二つの橋のたもとの脇道を、二方向からそれぞれ十分ほど入ったところに住んでいました。茅葺き屋根の私の家は、現在の本郷台駅の近くにあって旧・本郷小学校のすぐ裏手にあったんです。

その辺りは、私が中学三年生の時に今住んでいる大船に転居してから、米軍の※PXが接収解除になったり、根岸線が通り駅ができたり、激しく変化して地域です。

転居後もバスで天神橋や石橋を通ることや根岸線で本郷台を通ることはよくありましたが、天神橋や石橋から脇道に入って、自分が住んでいた所に行ったことは三十年以上ありませんでした。

それがあきつかけから、ふるさとを歩いてみようと思ったのです。

本郷台駅の改札を出て、まず本郷中学校まで行きました。母校の前で三十年前の町の風景を描いてからスタートしたかったのです。

区役所の前を天神橋まで行きます。天神橋は立派な橋に変わり、遊歩道もでき、ちょっと入った所には病院も、そこまではよく分かっていました。

橋を渡って左へ川に沿った脇道を入ります。様子が変わったといっても、川に沿って道なりに進めば小学校や我が家があった所だと思っていました。ところが、脇道に入るとすぐに自信を無くしてしまいました。右側に友人の家があり、その二軒ほど先のコンクリートで土留めをした家の角を川と一緒に急角度に右に曲がればと思っていたのですが、友人の家はあるものの道の様子がいぶ違います。川の流れも違うようです。

道の脇にケヤキの木が数本、川をのぞくように斜めに生えていたのを思い出しました。それらしい木はありませんが、その木の下に川は流れていません。それはかりでなく、そのケヤキと川の間に駐車場と家が二軒あるのです。あの頃向こう岸にあった家がこちらの岸に立っているのです。首をかしげてしまいました。今立っている道に沿って川が流れていたはずなんです。

思い切ってその家の外から声をかけてみました。高校生くらいの子が引込んで、女の方が出てこられました。

「私はこの奥に住んでいたのですが、三十年ぶりにこの近くを歩いてみてあります。おたすねしたいことがあるのですが、こちらの家の右側を流れている川は、以前は左側を流れていたのではないのでしょうか。」

「十年ほど前に改修工事をして川を変えてしまったのです。それまで川はこの道に沿って流れていて、この先の『学校橋』が架かっている川と合流していたのです。」

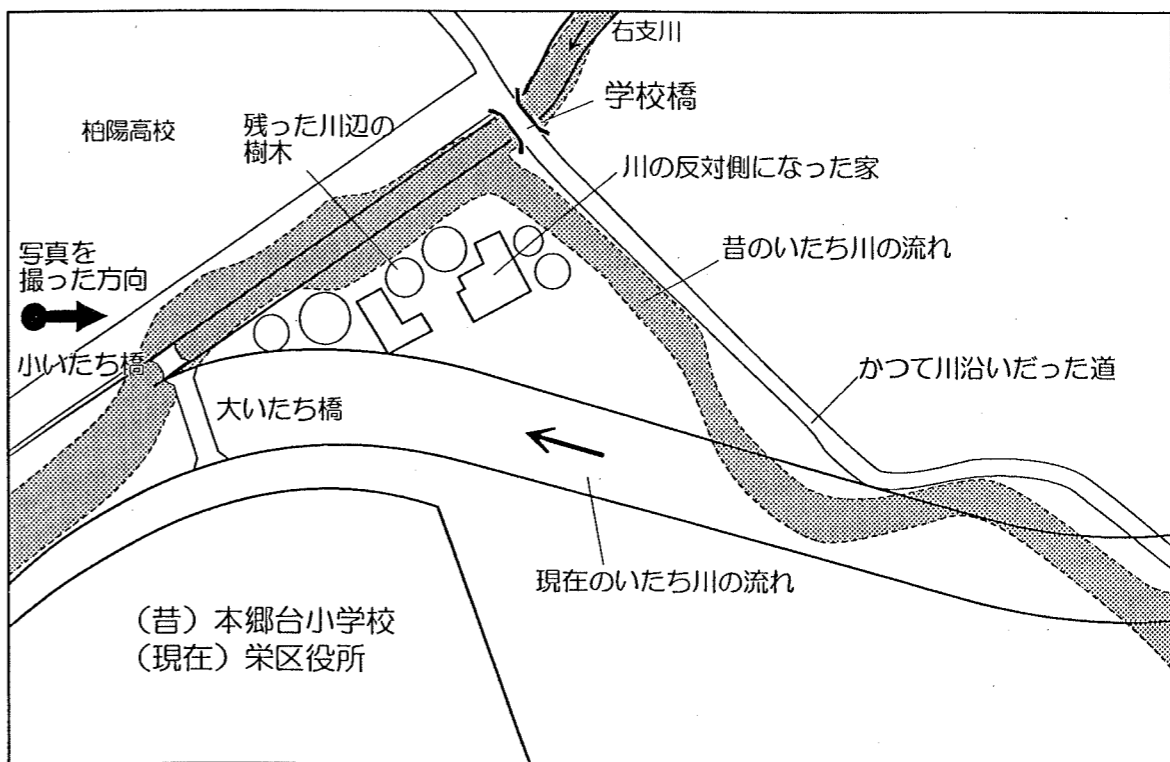
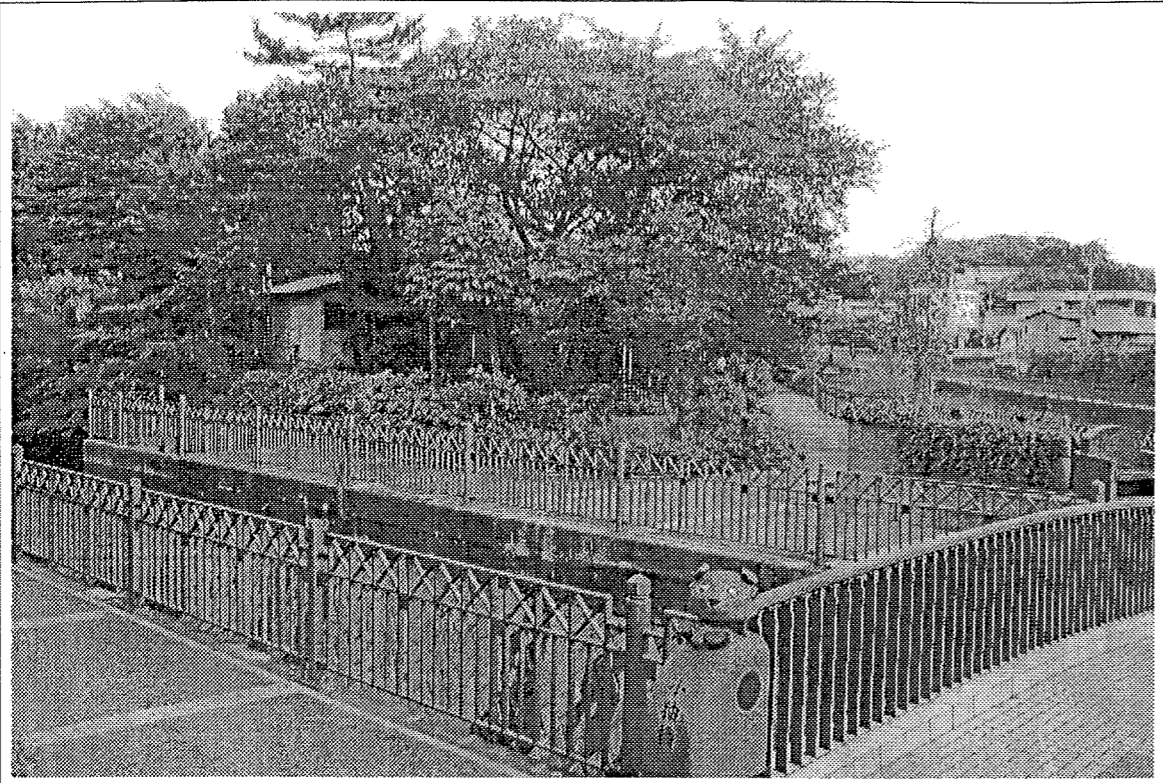
礼を言ってから、やはりこの道だったのだと学校橋へと歩きます。道は幅も広くなり舗装もきれいすっかり変わってしまっています。

四、五十メートルも行くと、道が急に狭くなり橋になります。「学校橋」です。

橋はひどく小さく見えます。コンクリートのがっしりした橋ですが、足を広げればつま先が橋の両端につきほどもです。四、五歩で渡り切ってしまうほどの長さしかありません。周辺に住宅が迫ってきたり、護岸工事がされて川が整備されたりしている景色にはおよそ不釣り合いの古い小さな橋です。

学校橋。この奥の学校に通う子供達が渡った橋。いつこの名がつけられたのでしょうか。学校は移転してありませんが、橋の小さなコンクリートの柱には「学校橋」と刻まれた鋳物のはめ込まれて光っています。幅も長さも少なくとも倍はあっただろう。私の心の中にはこの橋はそのくらい大きさに描かれていました。「学校橋」は何か縮んでしまったようです。

橋を渡り、小学校があったところまでたどってみることにしました。「道普請」と言っていました。が近所の人が寄り集まって凸凹を均したり脇の雑草を刈ったりした道です。



この付近には、畑や田はもうありません。立て込んだ家と家の間の細道をやはりこの道だったろうかと思いつながら歩きます。自転車飛ばせたり、友人とぶさけながら歩いた道で、もう少し広かったような気がします。

小さな団地の脇に出ました。辺りを歩き回ってみました。我が家はこの辺だったろうか、ここには井戸があって…。探しようが悪いのか何もありません。ふるさとからかなりのものが消えてしまったのです。

帰りは、学校橋には戻らず、「石橋」への道を歩き鎌倉街道に出ました。天神橋、学校橋から石橋まで、久しぶりに私が歩いたふるさはすべてが縮んでしまったようでした。

※PX：旧海軍の燃料廠が米軍に接収されPX（倉庫地区）となった。

